

学年末試験1週間前になりました。直前の詰め込みで対応するのではなく、自分の身になる学習をして試験に臨みましょう。

◎入試を見据えて

5年生は大学入試まで1年を切り、受験生としての生活がスタートしていることと思います。来年の入試を見据えて今年の入試動向にも意識を向けていきましょう。

☆文高理低が継続

過去2年間の入試は文系の人気が回復し続ける一方、理系・メディカル系の人気が低下という「文高理低」入試となっている。理科（専門）の負担が重いことや、大学生の就職状況が好調であることなどから、この傾向は今年も継続している。

- 「法」「経済」「経営」「商」「国際関係」が人気
- 「看護」の人気は落ち着いた状況
- 「化学・応用化学」は人気低下が目立つ

情報収集は必要ですが、人気や今の成績で安易に志望校を決めたり諦めたりするのはNG！

以下の学部系は理系でも人気

- 「建築・土木」→2020年に向けた建設ラッシュ、リニア中央新幹線工事、耐震強化のためのインフラ再構築など社会の需要性が高い。
- 「情報系」→ICTやIoTへの注目が集まり、社会の重要性が高い。

出願方式や受験料、併願校候補などについての情報収集も開始！

☆私立大の志願者数増加

以下の状況から私立大の延べ志願者は増加している。

- 国公立大に比べて私立大は文系の割合が多く、文系人気は志願者増加に繋がる
- インターネット出願採用大学の増加によって、併願受験料の割引制度が広がる

大都市部への学生集中を是正するため「入学定員の厳格化」が行われており、合格者数を絞る傾向がある。2018年度から更に入学定員超過率が厳しく（超えると助成金不交付）なるため、合格者を絞る傾向は続くと予想される。

☆後期日程廃止が続く難関国立10大学

難関国立10大学（北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大）では、後期日程廃止が続いている。

2016年度入試 東京大 後期日程廃止

2017年度入試 大阪大 後期日程廃止

2018年度入試 一橋大・法、社会、九州大・歯 後期日程廃止

【後期日程実施】北海道大、東北大(経済、理のみ)、東京工業大(第7類のみ)、

一橋大(経済のみ)、名古屋大(医のみ)、神戸大、九州大

後期日程を実施している学部も限られ、前期日程への一本化が進んでいる。

★後期日程廃止は前期日程や推薦入試の募集人員の変更だけでなく、私立大も含めた周辺大学の動向にも影響が出る。今後の模試動向に注意しよう。

◎多様化する大学入試 ~決して他人事ではない入試の変化~

大学入試が変わろうとしていることは知っていますね？ 教科の基礎的な力とともに思考力・判断力・表現力を重視した新しいタイプの問題や記述式の問題による「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が計画されています。これは4年生や5年生にも決して無関係な話ではありません。なぜなら、高齢化が進み人口が減少していく時代を生きていくのはみなさんも同じだからです。すでに各大学における個別入試では出題傾向が変化している大学が増加しています。そのうちのいくつかをご紹介します。

2016年度 早稲田大学・法学部 国語

「異質なものがあるからこそ、システムは維持可能である」とはどういうことか。著者の考えに即し、「文化」「芸術」「学問」「社会」のいずれかの領域から具体的な例(本文の例を除く)を挙げて120字以上180字以内で説明せよ。

本文中に記述されている内容を抜き出したりまとめたりするだけでなく、本文の主旨を踏まえて、自分の経験や知識と比較したり組み合わせたりして説明する力が問われる。

2016年度 北海道大学 日本史

建造物や遺跡が下線部「世界文化遺産」として登録されることでどのような利点、及び欠点が生じると思うか。あなたの考えを、それぞれ簡単に述べなさい。

メリット・デメリットを自身で考え多面的に説明する力が問われる。答えが一つとは限らず、答案によって着眼点、思考の深さの差異が浮き彫りになる。

2014年度 お茶の水女子大学 物理

I . 惑星のうち金星の表面温度は直線から大きく外れて高い。考えられる理由を、その検証の方法も含めて説明せよ。

II . 間(1)～(3)の考察やデータに関して気づくことや考えたことがあればいくつでも記せ。

I では、その真偽が検証可能かどうか見通しを持って理由を考える力に加えて、実際に検証計画を立案する力も問われる。

II では、与えられたデータや各問いで導き出した結果を活用して、大問全体を総括的に考察する力と、考察結果を説明する力が問われる

現在は国公立大や難関私立大での出題が目立ちますが、上記のようなタイプの問題が増えしていくのは言うまでもありません。「知識の量」を問うものから「知識を活用する力」を問うものへと変わっていきます。覚える（知識も大切）だけでなく、「なぜか」「ほかの答えはないか」を考えることを習慣化していきましょう。

☆難関大学だけではない！ 推薦・AO入試の出題にも変化あり

2016年度 専修大・ネットワーク情報学部 AO入試 小論文

「インターネットを利用した学習において中学生と高校生の違い」「タクシー運転手、テニスの審判、小学校の教師の中から、いつか人間がする必要がなくなると思う職業を選択し理由を記載」「将来、機械に仕事を奪われないために大学進学後にすべきこと」を課されている。(600字)

アドミッションポリシーの「自ら問題を解決し、その解決方法を提案し、実現できる者であることを期待する」に即した出題。

2016年度 日本大・国際関係学部 公募推薦入試 小論文

人類がさらされる国際問題の脅威を一つ取り上げて自分の考えを述べる(1200字)

日本が抱える貧困問題の原因と解決策(800字)

アドミッションポリシーの「広く知識を世界にもとめる人材の育成」「世界の多様な民族、言語、宗教、文化、社会、環境などをグローバルな視点で学びたい人」に即した出題。

「アドミッションポリシーへの理解」「いかに社会に目が向いているか」「課題解決能力」「語彙力」「構成力」